

創意工夫で越コロナ

歯学部生の今

歯学科2年 真田 翼

五十嵐キャンパスでの教養科目の履修を終え、この春から私たち2年生は旭町キャンパスでの新しい生活が始まりました。先輩方からお話を伺っていた通り授業数が増え、昨年度と比べて格段に忙しくなり時の流れが早く感じています。2年生になり約3ヶ月が経ちましたが、そんな日々の中で感じたことについて書こうと思います。

まず、2年生になり、生活のリズムが一変しました。昨年度は週に1、2回程しか対面形式の講義はなく、Zoomを用いたオンライン講義が主でしたが、今年度に入り毎日キャンパスで対面形式の講義を受けています。1時限目から朝早く起きてキャンパスへ向かうのは大変ですが、講義の中でわからなかった所を友達とすぐに共有できることや先生に気軽に質問に行くことができるなど、非常に学習がしやすくなりました。授業の内容も基礎系の専門科目に変わり、内容がより難しくなりました。覚えるべき内容もかなり多いため、日々の学習では復習に力を入れ繰り返し学習するようにしています。また、先生方から現在の講義内容が、学年が上がると受けるCBTや歯科医師国家試験にも出題されることや、実際の臨床の場で活用されている事例などについて聞くと、基礎系の科目の重要さが分かり、日々の学習のモチベーションにつながっています。

依然として新型コロナウイルスが流行しているため少人数ではありますが、実習やグループワークなども始まっています。人体解剖学実習では実際に人骨を観察し、グループのメンバーと確認しながら教科書では分かりにくい部分を立体的に捉えて理解することができました。また、歯学スタディスキルズⅡでは、昨年のスタディスキルズⅠで自身が作成したレポートよりも論理的な文章の作成に向け、論理的な構成とは何か、や自身と対立する意見の検討など、グループのメンバーと熱い議論を交わしています。今年度の後期からはグループワークや実習がさらに増え、様々なことが体験できます。しっかりとした予備知識をつけて実習に臨みたいので、9月から始まる期末テストは夏休みも利用してしっかり知識の向上を図りたいです。

また、私は歯学部バスケットボール部に所属していますが、日本の全歯学部が参加するオールデンタルが、8月に2年ぶりに開催されることとなり、どの部活動も気合が入っています。私たちバスケットボール部も、新大の他学部や他大学との練習試合などを精力的に行っています。私も2年生にして初めてのオールデンタルですが、決勝リーグに残れるよう精一杯コートを駆け抜け、記憶に残る夏にしたいです。

最後に、これからも仲間や先輩方と一緒に将来に向けて勉強だけでなく、何事にも全力に取り組み、歯学部での生活を文武両道で楽しんでいきたいと思っています。

歯学部生の今

歯学科2年 玉 舎 祥

昨年、新潟大学に入学こそしましたが一年生の間、授業のほとんどはオンラインだったため同期のみんなと会うことも少なく友好関係もなかなか築くのが難しかったです。しかし、二年生になって授業のほとんどが対面になったためほとんど毎日顔を合わせるようになり、より仲間意識が強まったと思います。また、編入生の新しい仲間も増えて去年と比べて格段に学校生活が充実しています。教養教科がほとんどだった昨年と比べて専門性が高く、内容もとても濃く、量もとても多いため日々の授業について行くのは大変ですし、授業を聞いただけでは理解できないことも度々ありますが、休み時間には周りで教えあうなどして解決しているところが多くみられますし、友人がいることで学習意欲が上がっているのではないかなと感じます。ただ、大体いつもいるグループが固定化されてきており、以前先生もおっしゃっていましたが、集まったグループ内の学習能力は似てくる、勘違いして覚えている物事があった時にそのまま気づかないことも起こることなので授業の中でクラスの誰とでも話し合えるような仲になればいいなと感じます。

また、二年生になって大きく変わったことと言えば上記のほかにはカリキュラムの忙しさだと思います。昨年では人によっては平日でも休みを作ったり、あっても一日で1、2時間しかなく時

間がたくさんあったりすることも多かったですが、二年生になって基本毎日授業が2、3時間以上びっしり入っており、もしたまに時間ができたとしても普段の授業の予習復習やその他の課題、やらなければいけないことで封殺されています。授業の開始から2か月半が過ぎた今では最初よりはこの忙しさに慣れてきましたが昨年のように自分のしたいことが自由にできるような休日が全くありません。正直なところ、昨年部活の先輩などから専門学校並みに忙しいと聞いてはいましたがこんなに余裕がないとは想像していませんでした。昨年大変だと話していた授業での課題に匹敵するようなものが毎週のようにあったり、授業の難易度も格段に上がっていることもあり、毎回の予習復習に何時間もかかったりと時間がもっと欲しいと今年度に入ってから何十回思ったかわかりません。先輩方がこれをこなしてきていると考えると本当にすごいなと思います。ただ、将来の夢である歯科医師に直接関係する内容であるため学習の意欲はとても高い状態で保つことができていないかと思います。私の場合は昨年歯科医院で歯科助手として働いていて現場のことを少しは理解しているため、この内容はここで使われることだな、この材料はああいうときに使っていたなと思い出し、楽しみながら学ぶことができます。将来、十分な知識と技術を持った立派な歯科医師になるために同期生の友人と助け合いながら、忙しいカリキュラムに必死にくらいつき、毎日毎日を大切に過ごしていこうと思っています。

コロナ禍 3 年目を迎えて

歯学科 3 年 溝 口 宗一朗

「さすがに来年には明けているだろう」と自分に言い聞かせながら耐え忍んできたコロナ禍も、ついに 3 年目を迎えてしまいました。ここ 2 年はウイルス感染拡大への懸念から様々なイベントに制限がかけられてしまっていたため、大学に入学して 3 年目にもなるのに「噂だとデンタルなるものが毎年開催されていたらしい」「噂だとかつては年 1 回県人会と称して出身県ごとに教授・学生が集まる機会があったらしい」「噂だと例年医歯学祭なるものが（以下略）」といったように、伝聞形でしか知らない行事ばかりといった状況です。僕はバドミントン部と軟式野球部に所属しているのですが、新歓や浜コン、東北 5 大学の交流戦など、やはり「聞いたことはあっても開催されたことがない」という「噂の行事」だらけです。しかし、ありがたいことにメインイベントである（という噂の）デンタルについては今年は開催される見通しなので、今までの 2 年の鬱憤を晴らすべく楽しんでこようと思います（残念ながら今年は中止になりました）。

イベントや部活の話ばかりになってしまうといけませんので、本業である勉強についても書いていこうと思います。3 年生の講義では、昨年度に生理学や生化学、解剖学などの基礎講義で学習した

内容を踏まえて、今度は「口腔」という視点からそれらの内容を捉えなおすということをしています。2 年生の内容がある程度頭に入っているという前提で講義が進んでいくので、2 年生での学習への取り組みがおろそかだと、進学塾の広告のマンガによく出てくる「中学の内容が頭に入らなくて授業についていけない高校生」みたいな状態になってしまいます。「中学英語の現在進行形も分からずによく高校入れたなこいつ」「通信教育でちゃんと勉強できるだけの自己管理能力があったらそもそも勉強で苦労しなくないか？」などとツッコミを入れながら読んでいたものですが、いざ大学に入って似たような状況に置かれてみるとあのマンガも中々バカにできないものだなと思います。「こんな内容も理解してないのによく進級できたなこいつ」と先生方にツッコミを入れられないように、1 つ 1 つの科目に真剣に取り組んでいこうと思います。

講義がより専門的になり、より臨床に近づいていくにつれて思うのが、知識は人の命に直結することです。薬剤の禁忌、口腔の解剖学的構造、各種画像診断法の長所・短所といった基本的なことを蔑ろにしていると重大な疾患を見落としたり医療事故を起こしたりしてしまう、とこれまで何度も先生方に念を押されてきましたし、本当にその通りだと思います。「悪い歯医者」にならないよう、そして「良い歯医者」になれるよう一日一日を大切に邁進していきたいです。



歯学部生の今

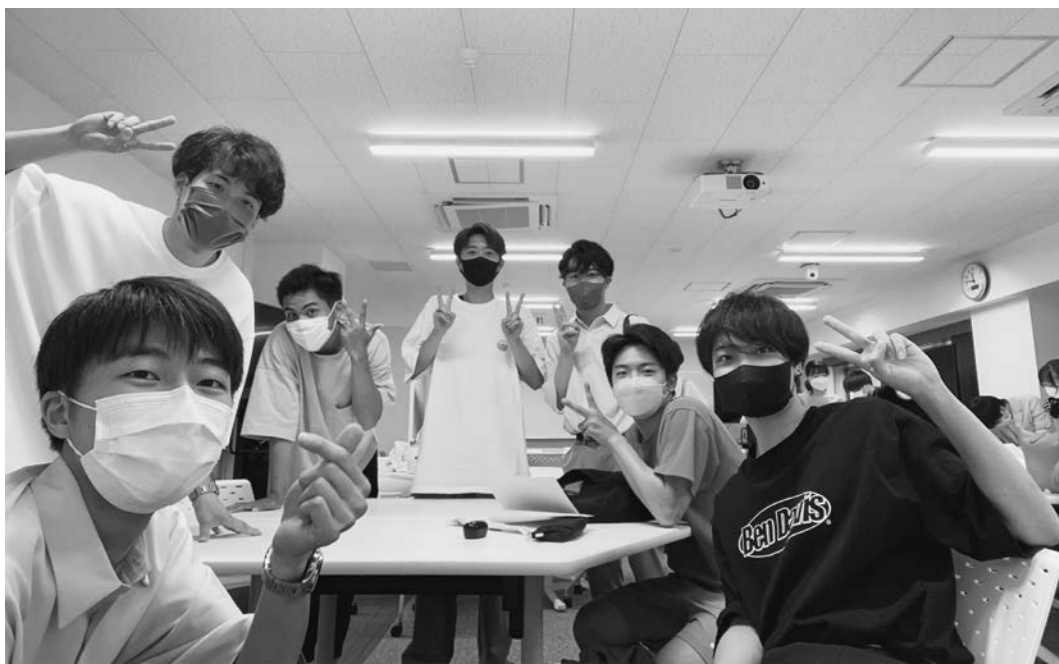
歯学科3年 塩谷 慶太

さて、夢の大学生活がスタートしてから早くも3年目に突入しました。3年生になると、リモート授業はほとんど無くなり対面で行う実習の授業が増えてきました。そのため毎日が非常に忙しく、曜日や時間の勘違いが多くなりました。勘違いは一番怖いので気をつけたいです。また、学年の仲もだいが深まり、3年目にしようやく思っていた学生生活がスタートしたように感じます。そして、新型コロナウイルスも少しずつ収束へと向かい始め、部活動や大会や数々のイベントが徐々に再開し、多くの人が、それぞれの目標に向けて頑張っています。

ところで、3年生になって大きく変わるのが人体解剖学実習の開始です。解剖学の実習は週2日もあり、午後1時から5時過ぎまで続きます。これまでの授業とは授業時間も異なる他、実際のご献体を使っての解剖となるため、改めて、医療従事者になることへの覚悟や責任を持つようになりました。また、1カ月に1度口頭試問が行われるため、1回1回の実習がとても重要になり、実習時間外での勉強量も日に日に増えています。最初

の方は、ご献体での解剖が初めてということもあり、メスやピンセットで皮膚や結合組織を剥がすのが非常に難しく、時間がかかってしまっていたが、実習が進むにつれて実習器具の使い方やコツが分かるようになり作業も効率的になりました。実習を進めていく中で一番興味深いのは、教科書と実際の人の体での構造の違いです。教科書で勉強していても、実際の体の構造と教科書に載っている体の構造とでは全く異なり、神経の走行や血管の分岐部、病変などにより臓器が思っていた構造をしていない可能性もあります。だからこそ、これまでに学んだ知識の再確認に加えて、新たな発見もすることができるのが解剖学実習の面白いところだと思います。全身の体を観察できるのは2度と出来ない体験なので、残りの実習も予習をしっかりとしたうえで前代未聞の失敗をおかさないように真剣に頑張りたいです。

最後に、勉強も歯科医師になるために必要なことではありますが、部活動や友達との思い出作りなど、学生の間には出来ないことがたくさんあります。将来、歯科医師となって社会に出た後に、「あの頃は本当に楽しかった」と思えるように、今しかない学生生活を全力で楽しんでいきたいです。



著者は1番右側、授業後に最高の友達たちと一緒に撮影

歯学部生の今 臨床に向けて

歯学科4年 栗田大地

初めまして。私は歯学科4年の栗田大地と言います。私が4年生に進級してから3ヵ月ほど経ちます。ついこの前春休みが終わったような感覚があるのに、もう前期のカリキュラムが終わろうとしているところです。前期は試験の数も多かったですし、今まで以上に沢山学ぶことがありました。自分が勉強したいと思うことに取り組んでいると時間はあっという間に過ぎてしまいます。歯科医師になるための勉強はやりがいがあることばかりです。

ニュースを見ていると新型コロナウイルスの感染状況の項目は以前より目立たなくなってきました。大学生の間でもその傾向は現れていて、対面式の課外活動の許可が下りたり、全国規模の大会の開催が数年ぶりに決定するなど、確実に流行前の日常を取り戻してきています。授業形態も対面式が大半を占めてきました。同級生達はすっかり知識をつけてきて、ディスカッションの時間はとても勉強になります。

さて、4年生は3年生に続き補綴物製作の実習（全部床義歯を製作しています）や、口腔外科学、病理学、歯周病学などを学んでいます。今年度に入ってから3年生の頃よりも「臨床」という言葉を聞く機会が増えてきました。講義の内容は各疾患の症状や予後、診断に重要な点など治療のた

めに必要な知識が主です。3年生までは基礎系の科目の方が多かったので、臨床的な講義を受けるのは新鮮な気持ちでした。スクリーンに映った症例写真などを見ていると歯学部生っぽいなぁと嬉しくなります。安直な思いとは相反して手を抜いた勉強をしているととても学びきれない量なので、講義中は真剣でなくてははいけません。

座学が多い前期のカリキュラムですが、週に何度かPBL（問題解決型学習）の時間があります。PBLでは実際の患者さんの口腔内写真と主訴などを盛り込んだシナリオを渡され、それをもとにディスカッションし、診断名・予防法・治療法などを導き出します。今まで学んできたことを活用して、診断名を決める練習をしているような感覚です。頭の中でとどまっていた知識が、症例写真と一致していると理解が深まった気がします。しかし診断を決めると言うことはとても難しいことでした。私が提案した診断内容は部分的に本質を捕らえている程度で、見逃している箇所があることが多いです。臨床でも同じように見逃しをしてしまったら…と思うと不安になることもあります。

PBLでは同級生達の助けが本当にありがたいです。彼らはいつもアイデアと知識で私が気づけなかった箇所を補ってくれました。勤勉な同級生に囲まれて自分は本当に良い環境にいるのだなと思います。しかしゆくゆくは全て1人でやらなければなりません。理想の歯科医師になれるよう、今後も精進していきたいと思います。

私の夢

歯学科4年 廣 理 芽

私が新潟大学の歯学部歯学科に入学して、4年と数か月が経った。約3年前に起こったCOVID-19のパンデミックによる混乱も落ち着き始め、大学での生活は日常を取り戻し始めている。私たち歯学科4年生は、座学による専門科目の学習に加え、病理学実習や全部床義歯実習などの実習に毎日励んでいる。そして、大学に入学して4年が経った今、私のかねてからの夢だった歯科矯正学が始まった。

実は私は、新潟大学歯学部に入學する一年前に、同大学の医学部を受験している。生まれつき重度の食物アレルギーを持ち、病院にかかることが多かった私は、世界中のアレルギーに悩む人を救いたいと思い、医学部合格を目指して勉強してきた。しかし、現役のときに受けた医学部に落ち、一年間の浪人生活を送るうちに、その夢は大きく変わった。高校の仲の良かった友人たちが大学生活を謳歌しているのを横目に早朝から深夜まで勉強に明け暮れる毎日は、私にとって肉体的にも精神的にも非常に辛いものであった。そんな生活を支えたのは、家族であった。私の父は矯正歯科医であり、常に患者さんに笑顔になってもらえる治療を提供すべく尽力する姿は最高に格好良かった。勉強に悩んだ日は父の診療室に行ってみ学をさせてもらう日も多かった。また、もともと歯科技工士だった母は、私が中学生の時に歯学科に合格し、子育てと家事、仕事を両立しながら毎日歯学部に通っていた。私が浪人生のとき母は歯学科6年生になっていた。その頃母は、毎朝誰よ

りも早く起きて家族の朝食、お弁当を作って大学に行き、浪人生であった私の帰宅時間に合わせて帰宅して夕飯を作り、家事と仕事をこなし、私が寝てから大学の勉強を始め、眠りにつくのは朝日が昇るころという生活を毎日送っていた。外出する際も旅行に行く際も常に片手に参考書を持ち、勉強をしていた母。母は、浪人生活のストレスで理不尽に当たってしまう私を支えながら勉強を続けた。その2人の背中を見て毎日勉強していくうちに、私は両親と同じ歯学部に入學したいと思うようになった。予備校のチューターは志望を歯学部に変えることを快く思っていなかったが、そんな私の話を毎日聞いてくれたのは、大阪大学歯学部に通いながら自分の夢を追いかける兄であった。そして、私の歯学部に行きたいという考えに対し、家族全員が「一度きりの人生だ、なりたいたいものになりなさい」といつてくれた。前期試験願書提出ぎりぎりまで悩んで志望したのは、家族と同じ「歯学部」であった。そして、私が歯学部に入學した春、母は歯科医師国家試験に現役合格し、今は矯正歯科医として父と一緒に働いている。

歯学部での生活は、かつて私が想像していた以上に大変である。同期のみんなに実習で大幅に後れを取って焦ったり、理想と現実の差に絶望して泣きながら勉強する日も少なくない。そんな時私の頭によぎるのは、家族の姿だ。私は、早く家族に追いつきたい。世界一尊敬している両親と肩を並べられるような矯正歯科医になって、いつかは私も世界一の矯正歯科医になりたい。

その夢を胸に抱いて、今日も私は大学に通っている。

5年生になって

歯学科5年 坂上莉奈

歯学科5年の坂上莉奈です。

5年生に進級して気付けば早くも3ヶ月が過ぎようとしています。以前までは、5、6年生は雲の上のような存在でした。緑衣をきて廊下を颯爽と歩く姿に憧れていたことを今でも覚えています。5年生になり嬉しさと緊張感を感じております。

今までと変わった点は、インプットが多い内容に比べると変化しアウトプットに重点が置かれていて、特にPBLや全身管理学といった授業では、問題点や原因を自分たちで見つけ、それを解決する為にたくさんの資料を参考に解決策や麻酔法などを見出しました。これまで習った内容での取りこぼしや、理解が不十分な点が見当たり知識の補完に役立ちました。

また、実習は総合模型実習とポリクリが中心となっています。前者では、複合的に多くの歯科疾患を抱えた患者様を想定した模型に対し、診療計画の段階から自力で取り組みます。これまでの模型実習でやってきた内容の総復習となります。後者はグループで行う各診療科ローテーション実習です。少人数なので操作を詳しくチェックしてもらえます。質問しやすい状況なのでとても勉強になります。個人的には、口腔外科の実習で採血や下顎孔伝達麻酔を行なったことがとても印象的でした。

また私事ではありますが、十日町きもの女王という新潟県十日町市の観光大使の任期を無事終わ



第46回十日町きもの祭りにて撮影

らせることができました。

十日町は、新潟県南部に位置し、四季折々としたとても素敵な町です。

冬期は降雪量がとても多く、江戸時代あたりから着物産業が発展し京都に次ぐ規模となっています。美味しい魚沼産コシヒカリや、ふのり蕎麦も有名です。

十日町市長をはじめ観光協会の方々にお世話になりました。

現在は、SNSでも有名な清津峡渓谷トンネルをはじめとした大地の芸術祭も4年ぶりに開催しています。

これから7月にCBT、9月にOSCEを控えています。ふと気づくと、学生生活も早いもので1年半しか残っていません。掛け替えのない友人がいたからこそ乗り越えられたこともたくさんありました。これからもずっと支え合い成長していけたら嬉しいです。

Your friendship means the world to me ! :)

いつも、丁寧に講義をしてくださる先生方、見守ってくださる学務の皆様に感謝申し上げます。



「ゆ」一同

歯学部生の今

歯学科6年 加藤音々

気付けば最高学年となっており、月日が経つのが本当に早いなと感じております。6年生となった今、毎日臨床実習に励んでいます。今回このような貴重な機会を頂きましたので、この1年間を振り返ってみたいと思います。

臨床実習の初日、登院式にて歯学部長から激励の言葉を頂きました。これから始まる臨床実習に対する不安と、患者さんとの出会いや実際に歯科治療を提供する楽しみと共に責任の重さを感じたのを今でも覚えています。臨床実習では基本的にスケジュールは自己管理です。各専門診療科の見学に行く日もあれば、総診で自身の担当する患者さんの診療をする日もあります。もちろん自分の担当させて頂く患者さんの予約は自分で取り、時には患者さんに電話をかけて取る時もあります。診療の際にはもちろんのことですが、電話でも患者さんの口腔内の近況について伺い、患者さんの状況を把握するようにしています。そのおかげで診療の前後で患者さんと些細な会話もできるようになり、歯科医療者としての姿勢や態度を学んでいます。

臨床実習は大変なことも多いですが、同級生と助け合いながら53期生みんなで頑張っています。お互いに悩みや治療計画、治療内容の相談をしたり、診療の支援をしたりと、励まし合いながら日々頑張っています。これまで座学として教科書で学んだ知識がなかなか臨床の場につながりにくい部分もありました。しかし先生方とのプレディ

スカッションや診療の見学、ポストチェックを通してご指導して頂くことで、少しずつではありますが歯科医療者としての知識や技術を学び、臨床実習が既に半分終わっている今、初日に感じた不安に少しずつ自信がついてきている気がします。当然ですが臨床実習では基礎実習で学んだ方法と異なる方法で診療することもあり、それがまた臨床の難しさでもあり面白さでもあると日々痛感しております。また、みんなそれぞれ得意不得意がある中で、自己研鑽に励みつつ臨床実習を進めている姿を見て私も頑張らなければと鼓舞され、意識を改めさせられています。また、義歯を製作している患者さんから「新しい入れ歯が楽しみね」と言って頂き、「一生懸命良い義歯を製作しなければ」と原動力になるなど、患者さんからの応援の言葉や治療後の患者さんの笑顔から、逆に元気を頂くこともありました。

臨床実習が残り数ヶ月となったこの時期になると、それぞれ進路について話す機会も増えてきました。また国家試験へ向けた勉強や補講などを受け、国家試験が着々と近づいてきていると感じております。目標とする場所や道はそれぞれ違いますが、53期生全員で卒業までの時間を大切に、臨床実習を頑張っていこうと思います。この1年、現在でも新型コロナウイルスが依然として終息しない状況ですが、私たちは臨床実習にて日々勉強の機会を頂けてまいりました。末筆となりますが、藤井先生をはじめとする多くの先生方より、実習を続けられるように多大なご配慮を頂戴してまいりましたこと、たいへん感謝しております。引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

歯学部生の今

歯学科6年 遠藤 愛

歯学科6年、遠藤愛と申します。歯学部ニュースは、1年生の頃から届くたびに読んでおりました。原稿依頼をいただき嬉しく思います。

さて、6年生は臨床実習を行なっている最中です。のこり3ヶ月となりました。臨床実習が始まると、4階の技工室で主に過ごすこととなります。技工室では同期のみなさんとお互いの症例について相談したり、悩みを共有したり、励ましあったりして過ごしています。初めは慣れなかった「1学年上の先輩の技工室」も、今や居心地の良い場所となりました。

臨床実習をここまで終えて、一番に出てくるのは、今まで学問を教えてくださった全ての方への感謝です。臨床実習に入り、症例を目にすることで、今まで学んできた知識がどのように活用されているのかを目の当たりにしました。2年生から基礎・臨床関係なく、どの科の先生方も、熱心に、親身に、私たち学生に対し対応をしてくださり、とても恵まれた環境で学習を続けることができ、本当にありがたく思っております。

将来何がしたいのか、そんなことも考える時期となりました。お恥ずかしい話ですが、新大歯学部に入ったのはたまたま新潟出身だった程度のきっかけで、ここ6年間も特別やりたいことが見つからずにいました。しかし、臨床実習を行い今まで曖昧だった知識を再認識したり、新たな考え

方に出会うこと、先生方から助言をもらう中で、どんな分野でもしっかりと勉強することで楽しさを見出せるようになりましたし、将来どのようなことをやりたいかが見えてきました。これからは残りの臨床実習と、国試の合格に向けて、学年全体で高め合って頑張っていきたいと思います。

そして、話は変わりますが、部活動のことを話したいと思っていました。私たちは引退年度の部活動がコロナ禍でなかった学年でした。楽しい時間がなくなってしまったのももちろんですが、一番心残りなのは、時間を共有した先輩方、同期、そして後輩に感謝を言う機会すらなかったことです。周りの方々のおかげで6年間とても楽しく過ごすことができました。この場を借りて、感謝を伝えたいです。そして後輩たちには活動できることに感謝し、楽しんでもらいたいです。

まだまだコロナ禍で油断できない状況ではありますが、今できることを精一杯頑張っていきたいと思います。



バドミントン部同期と 撮影時のみマスクを外しました

歯学部生の今

口腔生命福祉学科2年 並木真菜

2年生に進級してからもう3か月も過ぎてしまったと考えている口腔生命福祉学科2年の並木です。去年とは違い、対面授業が増え、毎日が充実しているためか余計早く感じます。対面授業が増え、自分が一番不安だったことは、もちろん友人関係です。1年生のころから週に何度かは顔を合わせているものの、特に自分は人の顔を覚えるのが不得手で、2年生の4月から対面で、しかもPBLというグループ学習があると知った日には春休み中、不安で仕方がなかったです。実際、そんなことはなく、みんな優しい人ばかりで、サークルに入っていない自分だけ浮くのではとも考えていたのですが、今では対面授業の中でPBLの授業などグループで行う授業が一番楽しいです。

2年生になってからの授業では歯科の専門的な分野を学び始め、また、去年に比べZoomを用いたオンライン授業が格段に減り、ほとんどの授業が対面方式に戻っています。また、新型コロナウイルスの流行が去年や一昨年と比べ、やや落ち着いてきたことからか、早期臨床実習では病院や介護福祉施設等の見学実習をさせていただくことができ、とてもありがたい限りです。見学や実際にその職場で働いていらっしゃる方々のお話を通して、社会の中で歯科衛生士や社会福祉士がどのよ

うな役割をもって働いているのかを学び、自身が学んだことだけでなく、ともに実習を受けたグループ内で学んだことを共有し、様々な視点での考え方を知ることができました。また、歯科衛生士や社会福祉士が働いている職場はどのような場所があるのか、どんな仕事があるのかを実際に見ることができ、大変有意義な見学実習となりました。

自分が一番楽しいと感じているPBLと呼ばれる授業では、6人もしくは7人ごとのグループに分かれ、シナリオから自分たちだけで疑問点や課題を設定し、各々で課題について勉強し、その成果を共有、新たな疑問や課題などを立てるといった学習方法で、自分は普通に講義を受けているよりも知識の定着がしやすいと感じています。PBLを行う前は、難しそうというイメージが強かったのですが、自分ひとりで行うわけではないため、わからないところなどは補い合って学ぶことができ、且つ、自分たちが主体になって行わないといけないため、以前よりも積極性を身に着けることができました。PBLの授業が始まる前に先生がおっしゃっていたように、社会に出たときに、問題に対して自分が何を学ぶ必要があるかを常に考えていくことが重要で、PBLはそういった主体的に考える能力を身に着けられるので、これからも自身が問題に直面した際に、疑問を持ち、それを解決しようとする積極的な学びの意識を持てるように精進していけたらと思います。

歯学部生の今

口腔生命福祉学科3年 長谷川 葉 奈

「ああ、今日もまた曇りか、…」と毎日の天気の良いさに気分が左右され、晴れの日を今まで以上に嬉しく感じるようになったのは晴れ間の少ない新潟県で生活するようになってからである。しかし、そんな生活も早いところで3年目に突入しようとしており、近年の世の中の時間の流れの速さを痛感させられる。入学当初は非対面授業が当たり前の学校生活で、友達は愚かクラスメイトとさえも面と向かって話す機会はなく、常に心細い思いをしていたのは、今でもつい昨日のこのように思い出される。そんな生活も少しずつ変化し、今では、ほとんどの講義や実習を対面で行うことができ、クラスメイトとも毎日顔を合わせ、充実した毎日を送ることができている。こんな生活は2年前の自分には想像できなかっただろう。

4月に進級し、私たちの生活の中で昨年と大きく変わった点の一つといえば、福祉の授業が本格的に始まったことではないだろうか。昨年は、福祉の内容の講義はあったものの、歯科の専門科目が大半を占めていたこともあり、あまり、深入りする機会は無かった。しかし、今年度に入ってから、週の半分が福祉の時間で埋まり自分の中でも福祉について考えたり、調べたりする時間が大幅に増えた。歯科と福祉の両方の学習の時間を確保し、それぞれの課題に取り組むことは昨年に比べると少し負担に感じる部分もあるが、私たちの学科の特徴でもある、ダブルライセンスの取得には欠かせない大切な過程であると強く感じている。福祉の授業は心の痛くなる現実を知ることが多く、その度に世間の残酷さを感じることも多い。しかし、同時に福祉というものの大切さや役割の

大きさを感じ、この人たちの役に立ちたい、そのためには今何が必要か、と考えることができ、本当に貴重な学習の時間を持てているように感じる。

また、昨年から続く歯科の専門的な学習の中でも昨年とは違ったものもある。その代表的なものとしては、幼稚園での歯科保健指導実習である。実際の対象者に対して自分達で指導計画を立て、対面で歯科保健指導を実施するというこの実習は、私たちにとって未知のものであり、初めは全てが探り探りであった。計画から実際の指導本番まで約2ヶ月間は本当に自分達の計画がうまくいくか常に不安だったが、クラスみんなで意見を出し合い最後の最後まで計画の改善を重ねた。不安が残る中、当日実際に指導をする中で、園児が楽しそうに指導を受けている様子を見た時、ほっと安心したと同時に、達成感を感じることができた。

これからの学生生活の中でも日々、不安は絶えないだろう。しかし、そんな時には周りのクラスメイトと協力しながら学習をより良いものとし、残り少ない学生生活を素晴らしいものにしていきたい。



保育園実習でグループで作成したもの

あっという間に4年生、最終学年

口腔生命福祉学科4年 篠原 風 緒

入学したのがつい昨日のこのように思い出され、私自身「いつの間に」と感じることも多々あり、時間の流れの速さに驚かされるばかりです。写真は新型コロナウイルス流行前の歯学部運動会の際に撮影したものです。写真は撮ってもなかなか見返さないことも多いので、久しぶりにこうして過去の写真を見返すといろいろなことを思い出してとても懐かしい気持ちになりました。

1年次の冬季休み頃から新型コロナウイルスが流行し、私たちの学生生活は一変しました。対面での実習が行えない、オンライン授業が主になるなど学校に行くことや友達に会う機会が減り、なかなかつらい時期もありました。しかしながら、社会もこのコロナ渦での対応に慣れつつあり、実習も再開し対面での講義も行えるようになってきました。徐々にではありますが私たちも本来の学生生活を取り戻しつつあると感じています。

4年生になって臨床実習が始まり、私たちは週に4日病院で実習を行っています。初めて1日を通して外来に出た日の緊張と不安は今でも忘れられません。実習が始まり約3か月が経ちましたが、まだまだ学ぶことが多いと感じています。しかしながら、先生方や歯科衛生士の方をはじめとして、たくさんの方々にご指導をいただき、日々課題にぶつかりながらも成長できているのではないかと思います。

また、病院での臨床実習に加えて私たちはそれぞれが選択した福祉施設において1か月間の社会

福祉現場実習を行います。児童相談所、特別養護老人ホームなど様々な施設での実習が予定されています。この実習は私たちにとって一例ではありますが福祉の現場の実際を経験できる大変貴重な場となっています。私は夏休み明けの9月から新潟大学患者総合サポートセンターにてMSWの実習を行う予定です。患者さんやそのご家族が抱えている問題の相談業務や関係機関との調整や連絡の実際を近くで経験することができる機会をととても楽しみにしています。

さて話は変わりますが、実習が終わるといよいよ歯科衛生士と社会福祉士の国家試験に向けて本格的に資格取得のための勉強が始まることと思います。現場で得た様々な経験を自分たちの武器とし、勉強にもつなげられるようにしたいと考えています。

最後になりますが、4年間で共に歩んできた26人の仲間たちと共に残りの大学生活悔いのないよう過ごしていきたいです。



2019年5月に開催された歯学部運動会の様子

令和3年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻博士課程修了者論文名

博士の専攻分野の名称	氏名（専攻）	博士論文名
博士（歯学）	市 川 優 （口腔生命科学）	Low Salivary IgA Levels against PAc (361-386) as a Risk Factor for Root Caries in Older Adults （高齢者における唾液中抗PAc（361-386）IgA抗体の根面う蝕発生リスク因子としての検討）
博士（歯学）	KARAWEK PANYAWONG Raksanan （口腔生命科学）	Oral Health and Nutritional Intake in Community-Dwelling 90-Year-Old Japanese People: A Cross-Sectional Study （日本における地域在住90歳高齢者の口腔衛生と栄養摂取に関する横断研究）
博士（歯学）	星 野 剛 志 （口腔生命科学）	Associations between plasma antibody levels against <i>Porphyromonas gingivalis</i> and atrial fibrillation among community-dwelling older individuals in Japan: cross-sectional study （日本の地域在住高齢者における血漿中抗 <i>Porphyromonas gingivalis</i> 抗体価と心房細動との関連：横断研究）
博士（歯学）	木 村 龍 弥 （口腔生命科学）	Metallization by Sputtering to Improve the Bond Strength between Zirconia Ceramics and Resin Cements. （スパッタリングを応用したメタライズによるジルコニア表面方法の開発）
博士（歯学）	伊 藤 元 貴 （口腔生命科学）	口腔扁平上皮癌細胞におけるアセチルCoAカルボキシラーゼの機能解析と抗癌薬の標的としての有用性の検討
博士（歯学）	笠 原 映 （口腔生命科学）	培養自家骨膜細胞移植を用いた上顎洞底挙上術における歯槽骨再生の評価法としての三次元CT画像解析システムの有用性
博士（歯学）	計 良 倫 子 （口腔生命科学）	日常的なガム咀嚼トレーニングが若年者の咀嚼機能および咀嚼行動に及ぼす影響
博士（歯学）	峯 尾 修 平 （口腔生命科学）	Rice bran-derived protein fractions enhance sulforaphane-induced anti-oxidative activity in gingival epithelial cells （米糠由来のタンパク分画は歯肉上皮細胞におけるSFN誘導性の抗酸化活性を増強させる）
博士（歯学）	山 下 萌 （口腔生命科学）	The periodontal inflamed surface area is associated with the clinical response to biological disease-modifying antirheumatic drugs in rheumatoid arthritis: A retrospective study （歯周炎症表面積は関節リウマチにおける生物学的疾患修飾性抗リウマチ薬に対する臨床反応と関連する：後ろ向き研究）
博士（歯学）	新 ちひろ （口腔生命科学）	骨格性下顎前突症患者における上顎骨形態の三次元的解析
博士（歯学）	笹 杏 奈 （口腔生命科学）	Functional evaluation of suprahyoid muscle activity during chewing （咀嚼における舌骨上筋群活動の機能評価）
博士（歯学）	畑 山 千賀子 （口腔生命科学）	口腔機能が低下した高齢者の咀嚼行動の特徴
博士（歯学）	堀 頌 子 （口腔生命科学）	Masticatory behavior change using a wearable chewing counter: Randomized control study （ウェアラブル咀嚼回数計を用いた咀嚼行動変容：ランダム化比較試験）

博士の専攻 分野の名称	氏名（専攻）	博士論文名
博士（歯学）	稲 葉 好 則 （口腔生命科学）	Changes in nutritional status of patients with jaw deformities after orthognathic surgery （顎矯正手術に伴う顎変形症患者の栄養状態の変化）
博士（歯学）	河原田 壮 史 （口腔生命科学）	Novel cytological model for the identification of early oral cancer diagnostic markers: the carcinoma sequence model （口腔がん早期診断用マーカーを同定するための新規発がんモデルの確立）
博士（歯学）	中 村 彬 彦 （口腔生命科学）	HEATR1, a novel interactor of Pontin/Reptin, stabilizes Pontin/Reptin and promotes cell proliferation of oral squamous cell carcinoma （Pontin/Reptinの新規結合因子であるHEATR 1 は、Pontin/Reptinの安定化と口腔扁平上皮癌細胞の増殖促進に寄与する）
博士（歯学）	今 井 有 蔵 （口腔生命科学）	脂肪組織由来幹細胞から抽出したCell Extractのin vitroにおける末梢神経再生効果の検討
博士（歯学）	小 山 祐 平 （口腔生命科学）	Cell Extract from Adipose Tissue-derived Stem Cells Potentiates Peripheral Nerve Regeneration （脂肪組織由来幹細胞の細胞抽出物は末梢神経再生を強化する）
博士（歯学）	都 野 さやか （口腔生命科学）	光学式モーションキャプチャ・システムを用いた印象採得動作の定量的解析
（早期修了）		
博士（歯学）	IBN BELAL MD RAZI SAIFULLAH （口腔生命科学）	Comparison of calcium and hydroxyl ion release ability and in vivo apatite-forming ability of three bioceramic-containing root canal sealers （3種のバイオセラミック配合シーラーのカルシウム、水酸化物イオン放出能および生体内アパタイト形成能の比較）
博士（歯学）	NAKSAGOON TRAITHAWIT （口腔生命科学）	Effect of Water Aging on the Anti-Biofilm Properties of Glass Ionomer Cement Containing Fluoro-Zinc-Silicate Fillers. （水中で劣化させた、フルオロ亜鉛シリケートフィラーを含むグラスアイオノマーセメントの抗バイオフィルム効果）



令和 4 年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命福祉学専攻博士前期・博士後期課程修了者論文名

博士の専攻

分野の名称 氏名（専攻） 博士論文名

修士 AKTER Tahrim The Cross-sectional area of the masseter muscle and late implant failure:
(口腔保健福祉学) (口腔生命福祉学) A Case-Control study
(咬筋断面積と口腔インプラントの後期失敗に関する症例対照研究)

修士 磯 貝 友 希 歯科衛生士養成女子短期大学生におけるメンタルヘルスと口腔関連QOLの実態および
(口腔保健福祉学) (口腔生命福祉学) その関連要因の検討

修士 橋 本 真 由 自立高齢者に対する介護予防事業における口腔機能向上プログラムの効果
(口腔保健福祉学) (口腔生命福祉学)

修士 山 田 真 子 Factors associated with complete recovery of oral intake in acute
(口腔保健福祉学) (口腔生命福祉学) dysphagic patients
(急性期嚥下障害患者の経口摂取再獲得に関わる因子)

修士 北 村 友里恵 貧困の連鎖を食い止めるための生活保護世帯の子どもの支援ー子どもの貧困対策の視
(口腔保健福祉学) (口腔生命福祉学) 点からー

博士 石 黒 明日香 障害福祉施設通所知的障害者の口腔保健の支援に向けた実行機能と関連する歯磨き行
(口腔保健福祉学) (口腔生命福祉学) 動質問紙の検証

博士 白 水 雅 子 Factors Affecting Masticatory Performance During Dentition Exchange
(口腔保健福祉学) (口腔生命福祉学) Period
(歯列交換期の咀嚼能力に影響を与える因子の検討)

